〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211 Fax. 0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:htt://www.omachi-sanpaku.com
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、
大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

OMACHI ALPINE MUSEUM
市立 大町山岳博物館

山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

12 月号
第 60 巻　第 11 号
2015 年

無 料
Free

もくじ

今月の1枚 …… 1ページ
・「山の歴史ウォーキング 体感！ 山岳文化都市おおまち -高瀬入編-」
博物館のひろば …… 4ページ
・ライチョウ飼育技術向上のための研修会
・ライチョウ保護増殖検討会
・第 16 回　ライチョウ会議　静岡大会
・山博友の会を通して大町市の魅力にせまる！
・ライチョウＤＮＡ調査
・ライチョウプロジェクト会議
・野生鳥獣（ライチョウ等）の実態調査

葛温泉湯道の石仏を見ながら葛温泉へ、自然と歴史を満喫！（写真は仙人岩）

山岳博物館・友の会共催事業
「山の歴史ウォーキング －高瀬入編－」を体感！

故郷の母なる川　高瀬川がもたらす自然と文化

清水　隆寿

高瀬川。この雅な川の名は、かつてこの地を治め、京の都に憧れをもった仁科氏の時代に付会された地名とされます。

槍ヶ岳に降った一滴の雨は、あまたの枝流から水を集め、岩を運び、土を動かし、平坦部に肥沃な大地をもたらしました。しかし大町の里、安曇野の大地にもたらされた恩恵は、時に水害の歴史とも表裏一体でありました。

江戸時代に残された絵図をみると、高瀬川上流部の支流には、いまでは人々の耳目から忘れさられた、現在の地図には名もない河川があまた記載されています。それはかつてこの地が林業の生産地として重要視され、用材とされていたことを伺わせ、大町の宿駅から遠く離れた野口の集落に大庄屋が置かれたことは、高瀬入周辺の山の資源の稀少性を物語ります。かつてはこの地に仁科神明宮の御領林があったとされ、また市内最大の祭り若一王子神社流鏑馬の神事の的板もこの地からもたらされるなど、林業と、そしてそれを生み出す山と人々との関わりは分かち難く結びついていました。

また一方で、江戸時代中期には湯治場として栄えた葛温泉が、人々の心身の痛みを和らげるとともに、人生に安らぎや潤いをもたらす場所として、大町の近在の人々に大切な土地として愛され、温泉に至る湯道には石仏が置かれ、丁石が並べられ、薬師堂が安置されるなど信仰へと結びついた地となりました。その他この地を介在して狩猟・漁労・鉱物探索・薬草採取、大正時代以降は電源開発を目的とする地として、山と人との関わりの歴史が濃密に見えてきます。

高瀬入周辺の地は、人々が自然と相克し、葛藤した歴史を残し、自然の脅威を肌身で触れ、自然のへの畏敬の念を感じることができる魅惑的な地であります。今回の山の歴史ウォーキングー高瀬入編ーではこうした歴史を持った地に、紅葉に彩られた湯道を巡る機会を得ました。皆さんも一度ゆっくりと歴史を噛みしめながら、散策を楽しまれてみてはいかがでしょうか。

（市立大町山岳博物館　副館長）

博物館のひろば

山岳博物館　市民「無料」開放デー

博物館では、毎月第３日曜日（家庭の日）とその前日の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています。12月は19日（土）と20日（日）です。

ライチョウ飼育技術向上のための研修会

平成27年10月1日（木）～2日（金）実施

付属園では本年度よりスバールバルライチョウの飼育を開始しています。現在は成鳥３羽と今年生まれた雛４羽が元気に生活しています。

今後もより良い飼育を行い、傷病に配慮した管理を行っていくために、富山市ファミリーパークの獣医師・秋葉由紀さんにご来館いただき、ご指導いただきました。

飼育について、ライチョウに触れながら健康状態のチェック方法や注意事項などをご教授いただきました。また、管理運営については、体験談を交えながら貴重なご意見をいただき、今後のライチョウ飼育の技術を向上させる良い機会となりました。

ライチョウＤＮＡ調査

平成27年10月16日（金）～18日（日）

ライチョウの保全をするためには、基礎的な情報を収集して具体的な施策をしなければなりませんが、血液を用いた解析はサンプル数が少ないなどから展開が進んでいませんでした。

環境省は野生のライチョウから採血をして集団の構成を解析することとし、いくつかの山域に生息するライチョウの血液を集めることにしました。重点地域としてアルプス北部、中部、南アルプスがあげられ、爺ヶ岳が選定され、長野県環境保全研究所の研究員と当館の指導員が採血にあたり、体重や翼長測定などのほか、個体識別用の足環を装着しました。

ライチョウ保護増殖検討会

平成27年10月22日（木）

国の特別天然記念物で絶滅のおそれがあるライチョウの保全について、南アルプス・北岳で実施された雛時期のケージ内保護方法や、ＤＮＡ解析の現状などが紹介されました。また、今年6月に北アルプス・乗鞍岳で10個を採卵し、東京都恩賜上野動物園と富山市ファミリーパークが人工孵化・育雛をした結果についてはオス3羽の生存と、発生中止、ヒナの死亡経過の報告がありましたが、死因の検査が終了していないため、来年2月ごろの次回の検討会までに原因を明らかにし、次年度の保全実施内容を確定していく方針となりました。

【写真提供：環境省長野環境事務所】

ライチョウプロジェクト会議

平成27年10月23日（金）～24日（土）

ライチョウ類を飼育している全国の動物園等が情報を共有し、ニホンライチョウの生息域外保全に向けて様々な課題に取り組んでいます。

スバールバルライチョウの飼育は今年新たに大町山岳博物館と那須どうぶつ王国が開始し、９月末日の総数は91羽です。今年度中に飯田市動物園が開始する予定で９ヵ所の施設での取り組みになります。

研究面では、孵化前採血による性判別と血糖値測定、腸内細菌叢の解明、発生中止卵の段階的形状、飼育ハンドブックの充実等が進められ、ライチョウ飼育の基礎資料にあてられます。

第16回　ライチョウ会議　静岡大会

平成27年10月24日（土）・25日（日）

平成11年から開始したライチョウ会議の第16回目が静岡市で開催されました。公開シンポジウムと専門家会議の２日間で構成され、一般市民の方々も多く参加しているのが見受けられました。

公開シンポジウムではライチョウに関連した南アルプスの成り立ちやその自然環境の現状などの広い講演がなされ、専門家会議ではライチョウの生息域内・域外の研究者や関係者がライチョウの保全に向けた忌憚のない議論を展開しました。

過去最大規模となった静岡大会では、ライチョウや山岳環境の保全への熱意もさらに高まっていることが感じられました。

野生鳥獣(ライチョウ等)の実態調査

平成 27 年 10 月 26 日(月)

長野県議会山岳環境保全対策議員連盟の議員さんが、野生鳥獣(ライチョウ等)の実態に関する緊急現地調査として、白馬村の五竜スキー場に引き続いて大町山岳博物館を訪れました。

テーマを「ライチョウの現状と保護策について」として、大町山岳博物館の取り組みや、信州大学名誉教授の中村先生の「ライチョウの生態及び現状と課題について」の講演を基に、環境省等関係機関の方の出席もいただき、意見交換が行われました。

中村先生からはライチョウのニホンザルによる捕食について報告があり、新たな問題についての共通認識が図られました。

つぎの方は、年間を通じて博物館の観覧料が無料です。
・大町市内在住の 65 歳以上の方
・大町市内の小学校・中学校に通う児童・生徒の方
（入場の際、受付にてお名前等をご記入ください）

企画展開催に伴う「ミュージアムガイド」

平成27年　7月26日（日）・8月15日（土）・9月20日（日）・10月11日（日）実施

企画展「山岳風景画の世界 ― “山博” 収蔵コレクション―」（会期：平成27年７月18日～ 10月12日）開催に伴い、学芸員が企画展の見どころなどを来館者に解説する「ミュージアムガイド」を実施しました。

企画展の会期中、延べ４日、午前・午後の１日２回、全８回行い、延べ51人の参加がありました。

この催しは、展示と関連付けた教育普及活動が効果的と考えて企画したものです。限られた回数でしたが、来館者の方々に企画展の内容により一層興味を持っていただき、展示資料についてさらに詳しく知っていただく機会を設けることができました。

理科授業　大町市立大町西小学校6年生 大町市立八坂小学校6年生

平成27年10月7日（水）・8日（木）・30日（金）実施

６年生の単元「大地のつくりと変化」の学習をするために、両校が当館をご利用くださいました。

最初に地質の専門員と一緒に２階地質のコーナーを見学した後、実際に現地で、地層の見学と椀がけ法による鉱物の洗い出しを体験していただきました。採集した鉱物は学校に持ち帰り、後日、顕微鏡で観察をしたそうです。児童のみなさんにお寄せいただいた感想から、地層の成り立ちや鉱物について興味を持っていただけたことが伺えました。今後も、学校の各単元学習で、当館を利用していただければ幸いです。

市内保育園・幼稚園の遠足

10月になり秋も深まるなか、９日（金）には、市内の「みあさ保育園」が、14日には「こまくさ幼稚園」が遠足で当館を訪れ、園児のみなさんが付属園の動物や館内の展示を見学されたほか、大町公園で遊んだり、お弁当を食べたりして楽しまれていました。

このほか、市内の「たけのこ保育園」・「くるみ保育園」・「かえで保育園」が遠足時の雨天対策として当館の利用をご検討くださいました。

当館では、身近な博物館として、園児のみなさんの見学（無料）を、いつでもお待ちしています。市外の保育園・幼稚園が当館をご利用いただく際も無料（園児・引率の先生ほか）となりますので、ぜひお気軽に遊びに来てください。

友の会会員とのチョウの定期調査が終了

山岳博物館では、信州大学先鋭領域融合研究群山岳科学研究所との協働企画展を開催するにあたり、江田慧子さん（信大山岳科学研究所 助教）と中村寛志さん（信大地域戦略センター 特任教授）の指導のもと、大町に生息するチョウの種類やフェノロジーを明らかにするため、平成27年6月28日から10月18日まで2週間毎に旧東山低山帯野外博物館（山の子村）において調査を実施しました。

実施には、大町山岳博物館友の会サークル「ボランティアの会」会員のみなさんを中心にご協力いただきました。

この成果は、平成28年２月13日（土）から開催する「北アルプス山麓の自然に蝶が舞う」に反映されます。

理科授業　大町市立美麻小中学校6年生

平成27年10月28日（水）

大町市立美麻小中小学校６年生（１クラス９人）が、動物に関する理科授業を館内で行いました。

これは、当館の展示を利用した学校との連携授業のひとつで、学校教育と社会教育との連携・融合（学社連携・融合）推進として、平成22年度から試行し、24年度から市内の全小学校を対象に取り組んでいるものです。

当館では、引き続き博物館を利用した小学校での各教科授業に対応するほか、青木湖や木崎湖でのキャンプにおける自然学習などにも対応したプログラムをご用意していますので、お気軽にご相談ください。お待ちしています。

動物写生大会表彰式

平成27年11月1日（日）

10月17日（土）～ 11月3日（火，祝）開催の「どうぶつ写生画展（日本動物園水族館中部ブロック動物園・水族館写生大会参加）」のなかで、長野県知事賞・長野県教育長賞・日本動物園水族館協会会長賞・大町市長賞・大町市教育長賞・山岳博物館館長賞・金賞・銀賞・銅賞の各受賞者23名の表彰式が行われました。

この写生大会は、野生動物に親しみを持ち、また、博物館が行う傷病鳥獣の救護などの活動を通して、付属園の役割を理解していただくことを目的に実施しているもので、参加いただいた幼児・児童、また保護者の方に関心をもっていただけたことと思われます。

お知らせ

大町山岳博物館友の会を通して大町市の魅力にせまる！

麻田　玲

大町市と信州大学では、信州大学が保有する学術的かつ専門的見地を活かして、大町市が直面する人口減少問題について、今後も大町市が将来にわたり持続可能な活力ある地域であるために、大町市の定住促進に関する地域課題の解決を志向する調査・研究活動を対象に共同研究を行っています。今般、この「大町定住促進研究支援」を活用し、「大町山岳博物館をとおした地域資源の再発見－友の会が支える博物館事業から－」というテーマにて、特に山岳博物館の友の会の長年の活動に注目し、研究のご協力をいただいております。

日本ではじめて山岳をテーマとして生まれた博物館を所有する大町市は、山岳文化都市をアピールし他市町村にない魅力と強みを持ち備えています。また近年、信州「山の日」制定やライチョウ再飼育開始など山岳博物館は社会的にも注目されています。この博物館の活動を長い間支えているのが、友の会です。この友の会、実は、大町市外（県外も多数）の会員数が多いことが特徴です。地域の特徴や魅力は、意外と地域内の方よりも外からの視点や発見によって改めて気が付かされることが多いのです。支援を続けてきた友の会の会員のみなさんが感じている、大町市および博物館の魅力を引き出し、地域資源として活用できるヒントを見つけてみたいと思っています。本研究では、これらを活用し、大町市の活性化につなげることを目指します。

山岳博物館は日本で随一の「山岳」博物館であり、他市町村が模倣不可能な大町市特有の地域資源です。山岳博物館を「（市民である）自分たちが持つ文化資源」と感じていただくにはどうしたらよいのか。その「再認識」作業に大きな役割を果たすことができるのが、友の会会員ではないでしょうか。

博物館は学習の場としての機能性を持ち教育普及活動との連携実効性が高いことも、他の施設と異なる点です。本研究は、28年２月13日～４月10日に予定されている信州大学山岳科学研究所と山岳博物館の連携企画展「大北・安曇野の自然に蝶が舞う」のための蝶の観察会から生まれたアイディアでした。地域の子供たちへ大町の自然と環境保全の大切さの体験を提供できる博物館と、それを支える友の会会員のみなさんとの出会いが、博物館の魅力再発見に何かできることはないか、と考えたことがきっかけです。

この企画展を信大側で担当している、山岳科学研究所の江田慧子助教、地域戦略センターの中村寛志特任教授も、これまでの山岳博物館とのネットワークを活用し、本研究のメンバーとして共に実施しております。なお、友の会のみなさんや、近隣住民の方々へのインタビューやアンケートへのご協力をぜひお願いしたいと考えております。また、研究の結果と成果につきましても、みなさまへご報告をさせていただく予定でおります。ご期待ください！

（信州大学地域戦略センター研究員）

編集・発行
市立大町山岳博物館 OMACHI ALPINE MUSEUM
―創立1951年―
〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
市立大町山岳博物館　編集責任者　鳥羽章人
TEL. 0261-22-0211 Fax. 0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:htt://www.omachi-sanpaku.com
12月号
第60巻 第11号
2015年
発行日　2015（平成27）年11月25日
印　刷　有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL.0261-22-3030 FAX.0261-23-2010